

(3) イベント広場について

平成 18 年 3 月 24 日
一宮川流域委員会事務局

－ 目 次 －

1. 一宮川ふるさとの川整備計画の概要	1
2. イベント広場計画地の現況	3
3. イベント広場の利用計画	6
4. イベント広場整備計画図(案)	8
5. イベント広場の維持・管理分担	12

□ 参考資料

1. 一宮川ふるさとの川整備計画の概要

イベント広場は、「一宮川河川整備計画」に先立って策定された「一宮川ふるさとの川整備計画」において、河口の自然に触れられる拠点として位置づけられた施設である。

1.1 一宮川ふるさとの川整備計画の経緯

(1) ふるさとの川整備計画とは

「ふるさとの川整備計画」とは河川管理者と地元自治体が共同で進める事業計画であり、河川本来の自然環境の保全・創出や周辺環境との調和を図りつつ、地域整備と一体となった河川改修を行い、良好な水辺空間の形成を図ることを目的としている。なお、策定された計画は国土交通大臣認定を受け、事業が進めることができる。

(2) 一宮川ふるさとの川整備計画の経緯

「一宮川ふるさとの川整備計画」は河口部から瑞沢川合流部までの約 7.0km を対象として、平成 11 年から 13 年に学識経験者や地元の方々、一宮町・睦沢町・長生村・千葉県で構成する検討委員会によって計画策定し、平成 14 年に国土交通省から認定を受けている。

1.2 一宮川ふるさとの川整備計画におけるイベント広場の位置付け・役割・施設内容

(1) 一宮川ふるさとの川整備計画におけるイベント広場の位置付け

一宮川ふるさとの川整備計画では、「安心な水辺とふるさとの自然・文化を育む一宮川の川づくり」をテーマとして対象区間における多自然化・親水化の検討を行っており、イベント広場と新一宮大橋～イベント広場右岸の位置する河口部は、以下のように位置付けられている。

- ・ 一宮川の河口部は、干潟や保安林、九十九里浜を中心とした自然環境が豊かなネイチャーエリアとして位置付け
- ・ ネイチャーエリアは、自然観察や体験学習の場として利用し、そしてイベント広場は、ネイチャーエリアの拠点として計画



□ 一宮川ふるさとの川整備計画図



□ イベント広場イメージスケッチ

(2) イベント広場・新一宮大橋～イベント広場右岸の役割

【イベント広場】

- ・ 一宮川の賑わいを回復する安全な親水空間
- ・ 一宮川や九十九里浜海岸の自然にふれあい・体験する場所
- ・ 地域の交流の場
- ・ 一宮海岸と河口部を連結させる海と川の交流広場
- ・ カヌー・ボート等の親水利用が可能となる空間

【新一宮大橋～イベント広場右岸】

- ・ 一宮川の本風景を再生する場所
- ・ 散策や遊歩道利用者の休憩の場や周辺住民の憩いの場

(3) イベント広場・新一宮大橋～イベント広場右岸の施設内容

【イベント広場】

① 砂浜（水浴場）

ワンド形状により砂を緩傾斜に安定させ、緩やかで親水化を図った砂浜を創出する。
また、これにより失われた一宮川の本風景・賑わいを再生する。

なお、砂浜は、水質改善が図られることを前提とし、将来的には水浴場を目指す。

② 原っぱ

原っぱを整備し、地域の活動・体験学習時の集合場所として利用できる空間とする。
なお、体験学習に対応し、原っぱはコウボウムギやハマヒルガオ、ハマナスなどの九十九里海岸で見られる海浜植物による緑化を行い、海浜植物の保全を図る。

③ 船着場

親水デッキを整備し、日常的にカヌーやボートなどの親水利用が可能となる船着場とする。

【新一宮大橋～イベント広場右岸】

新一宮大橋からイベント広場までは松並木を形成し、一宮川の本風景の再生を図る。
また、水辺に座って一宮川を眺める、釣りをする、河川清掃を行なうなどの利用に配慮し、階段護岸を整備する。

2. イベント広場計画地の現況

(1) 現況特性

- ・ 一宮が避暑地として栄えた頃、地元の人々の水浴場となっていた場所。
- ・ 平成12年より毎年10月に「親子ハゼ釣り大会」が行われている。※平成12年当初は「夢の水辺応援団」によって主催。現在は、「一宮町青少年相談員連絡協議会」に引き継がれている。
- ・ 全域が千葉県立九十九里自然公園（イベント広場計画地の陸域は特別地域）。
- ・ 一宮川種鰻組合によるシラスウナギの採捕（12/1～4/30）
- ・ 一宮海岸（及び駐車場）に近い場所に位置する。



□ 昭和初期における一宮川の利用状況（一宮町教育委員会提供資料より）



□ 親子ハゼ釣り大会の様子